



講演する青森県消費生活センター職員

暑さもおさまり涼しくなり始めた9月27日、弘前パークホテルに県内各地からおよそ120名が集い、青森県高P連第1回単位PTA会長会議が開催されました。

今井武副会長による開会のことばに続き、中村美津緒会長の挨拶がありました。報告事項として、各委員会活動報告・下北むつ大会会計報告・令和元年度会務報告が各委員会・事務局より、また私学助成の署名と協力について青森県

私立高等学校保護者会連合会山本真会長より説明がありました。

講演は青森県消費生活センター業務部・教育啓発課長増田あけみ氏と消費生活主任相談員葛西のり子氏を講師に迎え「18歳成人を迎えるにあたって保護者が知っておくべきこと」と題してご講話いただきました。2022年4月1日から成年年齢が現行の20歳から18歳に引き下げられます。法務省が発行する冊子によると、民法が定める成年年齢とは①一人で有効な契約ができる②父母の親権に服さなくなる年齢という意味があり、自立と責任を促す一方で若者の消費者トラブルも懸念されています。平成30年度に県内の消費生活相談窓口が受付した相談件数は8821件あり、うち20歳未満の相談件数は761件ありました。現代はインターネットの普及により快適に生活できる反面、消費者トラブルにも巻き込まれやすくなっています。講演では若者が巻き込まれやすい消費者トラブルの事例をもとに「契約」に関する

注意点や、トラブルの予防策として①トラブルをあらかじめさけること②契約をする前に慎重によく考えること③守ってくれる法律があること、どこに相談すればいいのかを知っておく等の「契約」の知恵を身につける大切さを説明いただきました。また、クイズ形式で日常生活の何気ない行動が「契約」であることや、リスクな心理傾向を測るチェックシートで性格的特徴を認識しトラブル回避につなげる方法なども解説いただきました。講演の最後にはサブライズゲストとして、青森県消費生活センターマスコットキャラクターの「テルミちゃん」が登場し、三村青森県知事も出演されているテルミーダンス動画に合わせ出席者全員と一緒に踊り、会場を大いに盛り上げてくれました。「テルミちゃん」という名前は「私に電話して」「TEL+MEから名付けられており、おかしい・あやしい・困ったという時に一人で抱え込まずに相談することが解決への近道ですと講演を締めくくられました。



「テルミーダンス」を踊る

した。続いて、講演内容を受けてのテーブル毎の協議では、子どもたちを取り巻く環境や問題点、学校・家庭・地域でできる働きかけなど若者を消費者トラブルから守る話し合いなどがもたれました。最後に藤田重彦副会長の閉会のことはで盛会のうちに終了いたしました。

(調査広報委員長

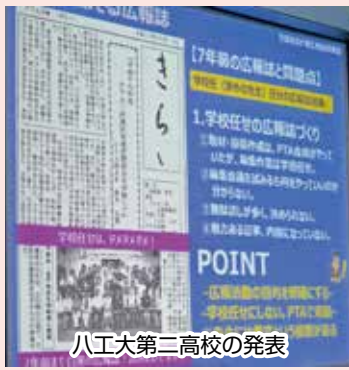
中村 靖子)

青森県高P連第1回単位PTA会長会議
「18歳成人を迎えるにあたって
保護者が知っておくべきこと」

青森県高P連広報紙づくり研修会

「魅力ある広報紙づくり、学ぼう、考えてみよう」

6月28日、「広報紙づくり研修会」が青森県総合社会教育センターで開催されました。学校と家庭を結ぶ広報紙について研修することにより、編集技量等を向上させながらPTA活動の活性化に役立てるという開催趣旨のもと県内各地から91名が参加しました。研修会場前に設けられた前年度の各校広報紙が展示されたスペースには、開会前から多くの参加者が集まり熱心に研究していました。



八工大第二高校の発表

たこと、八戸工業高等学校・青森西高等学校が優秀賞を受賞したことが報告され、青森県の広報紙づくりのレベルの高さを実感しました。続いて審査基準について「PTA活動や保護者の思いを伝える紙面づくり」「見やすく、読みやすい紙面づくり」「学校の現状を十分に伝達する紙面づくり」「特色ある紙面づくり（特集記事）」の4つの観点で総合的に審査が行われるとの説明がありました。

次に、平成30年度青森県高P連広報紙コンクール最優秀賞を受賞した八戸工業大学第二高等学校より発表がありました。保護者が積極的に参加している様子が紹介され、一丸となった活動が広報紙づくりに活かされていました。

その後、東奥日報社編集局整理部委員 三上朋徳氏から「魅力ある広報紙づくり、学ぼう、考えてみよう」というテーマで資料をご提供いただき事務局から内容が伝えられました。広報紙をつくる目的を明確にする重要性と、広報紙コンテンツの三本柱①報道もの（行事の紹介、活動報告、組織の現状報告）②企画もの（テーマ

青森県高P連進路指導研修会

「地域連携を生かした主体的・対話的で深い学びをキャリア教育に生かすには～高校魅力化プロジェクトと社会に開かれた学び～」

10月29日に青森県総合社会教育センターの大研修室において青森県高等学校PTA連合会と青森県総合社会教育センターとの共催で「地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム」・「青森県高等学校PTA連合会進路指導研修会」を開催しました。県内各高校から100名を超える保護者と教職員の参加を頂きました。

講演に先立ち、あおもりキャリア教育応援企業17社の表彰とトークセッション、ポスターセッション

ンが行われ、その後に北陸大学経済経営学部教授の藤岡慎二氏に講演していただきました。

「地域連携を生かした主体的・対話的で深い学びをキャリア教育と高大接続・新大学入試改革に活かすには～高校魅力化プロジェクトと社会に開かれた学び～」という演題で、キャリア教育には、本気で高校生と接してくれる大人が必要だということでした。藤岡氏によると、「これまで『高校で学ぶこと』、『大学で学ぶこと』、『社会人として必要なこと』が繋がっていなかったことで、社会の変化に人材が追いついていない。そこで、高校と大学の学びを繋げて、高校で育む学力と大学で育む学力の共通言語（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・協働性・多様性）を作ることで高校と大学の学びを繋げ、一貫性を持たせる改革が必要である。生徒が問題を発見し、他者・地域と対話し、原因を追求しながら課題を設定した上で解決策を考えれば、その後の解決策を行動に移していく時に地域との連携が必要となる。地域の大人達と議論をし、地域の課題に関わるには、本気で高校生と接してくれる大人が地域にいることが大切だし、高校には、地域に開かれた学びと経験の場としての機能を持たせること

が大切だ」ということでした。講演終了後は、場所を移して東北6県の進路対策委員会の会議があり、各県の委員会の活動についての報告が行われました。どの県でも、地域産業・行政と学校の連携推進フォーラムを開催し、行政・学校・地域・家庭の連携によるキャリア教育のさらなる充実に向けて、教育支援のあり方や若年層の県内定着、学校と地域の連携・協働による人材の育成について考えようという取り組みんでいると感じました。

（進路対策委員長 古館 至）



講演する藤岡慎二氏

青森県高P連合同研修会

「レモンさんのビタミントーク」～We are シンセキ！～



講演するレモンさん

で記念講演されたラジオDJレモンさんを講師に迎え「レモンさんのビタミントーク」～We are シンセキ！～と題して、昭和と平成との教育方針の変革、子どもの物事に対する考え方の変化などについてご講演していただきました。

開会式では、研修委員長の阿部善将氏の挨拶、事務局校である金木高校福原直樹校長から挨拶があり、その後、レモンさんの講演がスタートしました。まず、動画による自己紹介、暗くなったステージから颯爽と登場、会場は拍手喝采の盛り上がりでした。歯切れのよい大阪弁、同年代の心をつかむ笑い、時にははじめに現代教育のあり方を話して頂き、素晴らしい「ビタミントーク」でした。講演内容の一つを参加されていない方にお伝えするとすれば、演題にあります「～We are シンセキ！～」の意味です。実際の親戚とは仲がそんなに良くないという方もいらつしやるかもわかりませんが、レモンさんがそう伝える意味は、仲の良い人や、身内だと、「しょうがないなあ」と、いろんな事情を知っているで許せることがある。その誰もが持っている「身内に対しての優しさ」を自分の中から引き出して、他人から因縁をつけられたり、嫌がらせを受けても、「オー！ドラマティック！何か事情があたりで？」と心の中で叫びながら、自分の心を自ら守るように、一瞬で人ごとにする感じにすると、「イライラする気持ち」が少し減っていきますよ。」ということ伝えて頂きました。怒ったところで何も良い方向には進まず、思わぬ悪い方向に転がることもよくあります。他人であるにもかかわらず、誰もが「シンセキ」であると思えば、物事は良い方向に進むと熱く伝えて下さいました。私自身もこの言葉を聞いてなるほどと思うと同時に、レモンさんがいろいろな経験をしてこの「We are シンセキ！」というすばらしい発想に至ったのだろうと思います、とても感銘を受けました。

人は誰しも他人を傷つけたくはないものだと思います。しかし、自分自身を守る為に気づかぬうちに他人を傷つけていることはあると思います。他人を変えることは非常に難しいことですが、自分を変えるのは自分次第です。そのことを気付かせてもらえた研修会でした。このような貴重な講演を間近で拝聴でき、とても幸せな時間を過ごすことがで

きたのも、研修委員会、健全育成委員会をはじめ参加いただいた皆さんのご協力があったからこそだと思っております。本当にありがとうございます。また、今回ご都合が合わず参加できなかった方々には、是非、次回のご参加をお勧めいたします。何かが変わるかもしれません。よろしくお願ひします。

（健全育成委員長 松澤 充）



研修会スタッフ

去る令和元年9月13日に青森県総合社会教育センターにて、健全育成委員会・研修委員会の合同研修会が開催されました。参加者は184名と、お忙しい中多数の方々にご参加いただき誠にありがとうございました。

さて、今回の研修会は、昨年全国高等学校PTA連合会佐賀大会

地区協議会だより

東青地区協議会

東青地区協議会 会長 蝦名 真希

東青地区協議会研修会は、11月15日にアップルパレス青森にて開催されました。

講師には株式会社オカムラ食品工業代表取締役、岡村恒一氏をお招きし、『グローバルな展開&地域への貢献』～食の安全を守る～をテーマにご講演いただきました。岡村先生は企業の視点から、ビジネスは人々に価値を提供するものであり、地域と共存していくことで地域を活性化し、さらに地域創生につながっていくとのミッションについてお話されました。具体的には深浦町や今別町でのサーモン養殖による地域の発展と、地方にありながらもデンマークやベトナムでのサーモン養殖や水産加工などを展開する独自のグローバル戦略について語ってくれました。

また、世界各国の人々と仕事をするうえで、多種多様な宗教や文化、個々の違いを受けとめて一緒に仕事をすることが大事であり、チームで協力していくことが大切であることもお話し下さいました。

講師の岡村先生、そして参加された保護者の方々、関係者各位に心より感謝申し上げます。



中南地区協議会

中南地区協議会 会長 今井 武

令和元年8月6日(火) 弘前市文化センターにおいて「親と子と教師の集い」が開催されました。今回の全体テーマは『地域と歩み世界へ挑む子供たち』～激動する世界と未来へ駆けあがれ～と題して行われました。最初に講師として、株式会社コンシス代表取締役の大浦雅勝氏をお迎えして「5G時代到来！人口減少社会におけるIoTの役割と未来」と題して講演をいただきました。ここで言う5Gとは第5世代移動通信システムを意味します。また、IoTとは「Internet of Things」モノがインターネット経由で通信することを意味します。5Gはすでに技術的には確立した世界では、それぞれの国によって国民性や意識の違いもあり、日常の固定観念では国際理解は難しく、柔軟な発想が求められるというところをお話いただきました。その後行われた分科会では、中南地区13校から161名の参加をいただきました。生徒、保護者、教師が「地域資源の活用」「地域への思い」の二つのテーマに基づいて発表していただきました。中でも、自分の故郷は高齢化・過疎化が進み、若者が少なくなくなっている現状を目の当たりにして、何とかしたいと医師を目指して地元の役に立ちたいと頑張っている生徒の思いも聞き、とても心強く思いました。今の若者たちの地元に対する強く熱い思いを知ることができ、大変有意義な一日を過ごすことができました。



三八地区協議会

三八地区協議会 会長 向田 秀美

令和元年9月5日(木) 八戸プラザホテルにて三八地区協議会の研修・母親委員会、健全育成委員会合同研修会を開催しました。

開会行事後、八戸学院大学、地域連携研究センター教授の茂木典子氏により『共に育つ』というテーマでご講演いただきました。長年、教育現場でご活躍なされた先生は、母親としての体験も交えながら様々な角度からお話下さり、とても興味深く拝聴しました。会場の皆様からも、「心豊かに生きるために、生涯学ぶ姿勢を持ちたい。」「大変共感できる内容で、自分の子育てに自信を持つていいのだと安心した。」などの意見が出され、最後に先生が朗読なさった『ふみづくえ』のエッセイに涙する姿もありました。

午後はYSアリーナ八戸を一般公開に先立ち一足先に見学しました。昨年は建設中の現場を見学させていただいたのですが、完成時の見学を望む声が多かったため、2年連続の見学会となりました。建設中とはまた違って見ると、スケート競技だけでなく、イベント等にも活用できる立派な屋内スケート場に『氷都八戸を再び』と期待を寄せ、声も多数聞こえてきました。

この研修会を通して、皆様の日頃のPTA活動がますます活発になることを願い、少しでもお役に立てれば幸いです。



地区協議会だより

西北地区協議会

西北地区協議会 会長 藤田 重彦

9月12日(木)にプラザマリユウ五所川原にて西北地区協議会研修会を開催いたしました。講師としてF R教育臨床研究所所長の花輪敏男氏を招き、「親が子供を理解し、よりよい関わりをもつための分かりやすくするための対応」をテーマに、「高校生の発達障害の理解と対応」と題して講演していただきました。

どこにでもいるちよつと手のかかる子供が実は発達障害の可能性があるという事や、A D H Dの研究を通して自分がそうであるとわかった事、「坂本龍馬やエジソンのように、自分は他人よりもエネルギーがあるはず」と言い聞かせ、様々な工夫をしてきたことを語ってくださいました。また、ご自身がそうであるため、指示の工夫や必要な配慮、派生する二次障害を避けるために必要な関わり方や考え方を、具体的かつ丁寧に教えていただきました。質疑応答では、具体的な個別ケースに対する対応の仕方など、より細かい内容の質問を受ける保護者もあり、とても有意義な研修会となりました。

この研修会を準備してくださった五所川原商業高校さん、講演をしてくださった花輪氏に感謝すると共に、参加してくださった皆さんにお礼を申し上げますと共に、今後も保護者の要望に添った研修会を計画していきたいと思ひます。



上十三地区協議会

上十三地区協議会 会長 畑山 昭博

令和元年11月20日、六戸総合体育館を会場に、健全育成委員会と研修委員会の合同研修会を開催しました。

今年度の研修は「視覚障害者との関わり方を通して共生社会の形成に向けたインクルーシブ社会の構築等への取り組みを学ぶ」と題して、講師に青森県立八戸盲学校、教諭 松尾様司氏をお招きして実施しました。

初めに参加者全員にアイマスクをしてもらい松尾先生のお話しを聞き、声だけのイメージでどういう人なのかを連想するという視覚障害者が普段どういう感覚で聞いているのかという体験からスタートしました。盲学校では全盲から視力0.3以下の子供たちが対象になるということでした。授業で使っている点字の教科書や通常の字よりも数倍大きい字の教科書も見せていただきました。日常の生活では、歩道に敷いてある黄色の点字ブロッタや視覚障害者が使用している白杖も大事なものであると再認識しました。実践体験では、二人ペアになり視覚障害者と誘導する方と歩行のサポートしながらお互いの気持ちに合わないという難しいということも分かりました。また、パラ競技のバレーボール体験では、鈴入りのボールを転がして取るのですがこれもかなり難しいものでした。

今回の貴重な体験を通して、視覚障害者だけではなくいろいろな障害者の為にも、環境の整備や配慮の必要性が重要なことだと改めて感じました。

最後に講師の松尾先生、そして参加頂きました皆様に感謝申し上げます。



下北むつ地区協議会

下北むつ地区協議会 副会長 二本柳 信行

令和元年11月8日(金)、むつ下北観光物産館において、下北むつ地区協議会研修会が開催されました。講演は、家族とともにインターンした青森県でデザイン会社や飲食店を始めた画家である井上信平氏を講師に迎え、「社会で求められる人材について」と題し、講演をいただきました。

井上氏は兵庫県に生まれ、アメリカの大学でグラフィックデザインを専攻。在学中にインターネットで検索した『ねぶた』に魅せられて、2002年に弘前へ移住。その後パソコン一台で株式会社0172を立ち上げ、ハンバーガー屋『デューボワ』をオープン。現在は、問題解決型経営方針や、若年者や子育て女性の就労環境の充実などに精力的に取り組む活躍されています。

講演では、夢を叶えるための決断と不安や苦労、新しい環境での出会い等、ご自身の経験を楽しい秘話を交えて話して下さいました。

少子高齢化が急速に進み、労働力人口の減少が深刻な問題となっている中、新卒者を含む人材の確保・育成は重要な課題であります。

まずは一人ひとりの個性をどのようにして活かすかが重要であり、そのためには教養と技量のあるリーダーの存在が不可欠であるとともに、今回の講演は、今後の活動に活かすことが出来る内容であり、実りある研修会となりました。





第68回東北地区高等学校 PTA連合会山形大会に参加して

西北地区協議会 前会長 今 広樹氏

平成から令和に年号が変わって始めての東北大会が、7月4日～5日の2日間、山形市に於いて、大会テーマ「一人ひとりの個性が奏であう未来へ」～自立・協働・創造をめざして～のもと、家庭・学校・地域が一体となり、互いに補完し合いながら「共に子どもを育てていく」という意識を持った取り組みを推進していこうという趣旨で開催されました。既にOBになっている身ではありますが、表彰者ということで有難く参加させていただきました。

オープニングでは、山形北高校音楽科生徒の素晴らしい独唱からスタートし、続く開会行事の中で表彰を受けました。

続く研究協議では、青森県高P連からは県立百石高等学校の河村PTA会長が「本校PTAの活動報告」学校と保護者をつなぐ活動について」と題し、流暢な英語のスピーチから始まり、あいさつ運動・PTA環境整備・文化祭・研修旅行について発表されました。少子化が進む中で、生徒確保が課題となっている現状を鑑み、中学生に本校に対する関心をもってもらうためには、保護者にも本校の良さを知っ

てもらう必要がある。そのためには、PTA活動を活性化させ、関心をもってもらい努力を続けていかなければならない。人と人がつながるとパワーが生まれる。行事を楽しみ雰囲気づくりが大切であるとおっしゃっており、これこそ、会長職の役割であると感じました。

初めての単P会長にプラスして地区協議会の会長を仰せつかい、右も左も分からぬまま渉外部の先生方に「おんぶにだっこ」で、何とか1年間務めさせていただきましたが、青森県高P連の皆様や、東北地区の皆様、単Pの皆様に支えられ何とか「こなした」と言うのが本音でございます。その中で、PTAに係る方々にお会いでき、様々な気づきを与えていただき、今さらながら私自身も成長できた1年間だったと思います。

「つながるPTA」として、今後とも様々なつながりが得られる場として、子ども達の健やかな学校生活に寄与する連合会として、今後とも更なるご発展を祈念いたします。

一度卒業しますが、再度機会がございましたら何卒よろしくお願い致します。

文部科学大臣表彰受賞から感じたこと ～すべては子どもたちのために～

八戸工業大学第二高等学校・附属中学校 PTA会長 柴田 一則氏

みなさん、こんにちは！この度、八戸工業大学第二高等学校・附属中学校父母と教師の会が「令和元年度優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞しました。

これは、PTA活動で顕著な実績をあげている団体に贈られるもので、8月22日京都で開催された第69回全国高等学校PTA連合会京都大会において表彰を受けて参りました。前日までその日の京都は雨の予報でしたが、当日はまさかの快晴！代表して表彰式に参加した役員6名のボルテージが雨雲も吹き飛ばしたようで、会場も熱気で溢れていました。しかし京都はとにかく暑かった！

ホールには今年度も全国から選抜されたPTA広報紙が掲示されていきました。もちろん2年連続東北地区高校PTA連合会広報紙コンクール最優秀賞に輝いた本校の広報紙「きら、」も掲示されておりました。東北大会郡山大会では、展示していた「きら、」が手違いで持ち去られるという珍事も発生しましたが、全国大会ではそのようなハプニングもなく、最後まで多くの方々に手に取って見ていただきました。

さて、今回の受賞は「関係者の皆さんの力を結集し積み上げてきたことが評価された」ことだと、本当にうれしく思っています。

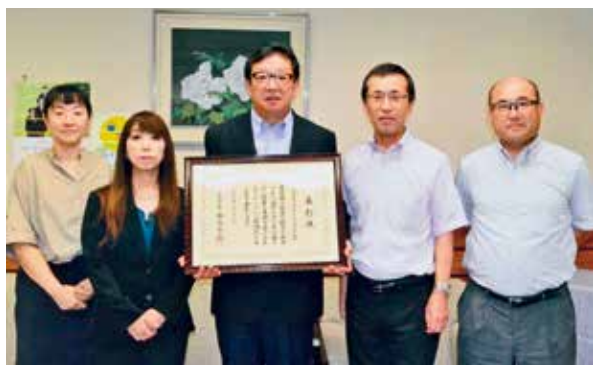
本校は昨年度、附属中学校が開校しました。それに併せ、父母と教師の会の活動は、中学校・高校の合同で活動を行っております。共に励まし合い、支え合いながら「P…ぱっと T…楽しく A…遊ぼうよ！」を合言葉に、できるときにできる人が参加する。そして初めての人で

も参加しやすいよう、いつでも笑顔のウェルカム体制で日々の活動に取り組んでおります。

さて、本校PTAは、保護者や先生も含めて、関わる人全てが目的やビジョンを明確にして共有すること、この組織が何のためのものかを考えることを大切に、情熱を持って運営にあたってきました。その成果として「自分に何ができるのか？」を前向きに考えて貢献するという意欲が芽生え、そしてメンバーを「頼る」ことができるようになり、より絆が深まったと感じています。

「すべては子どもたちのために」。しかし最終的には子どもを支える保護者自身の生涯学習につながるよう、挑戦と実践を続けてきました。

子どもたちの成長に併せて保護者も成長するPTA。これからも活動のバロメーター「ドキドキわくわく」できる素敵な活動に近づけていきたいと思っています。



我がPTA活動

田名部高等学校 PTA副会長 領毛 理

田名部高校は平成28年に百周年を迎え、今年103年目に突入しました。先人達が積み上げてきた活動も時を経て、時代の変化と共に変遷してきましたが「子供達の為に」という精神は少しもぶれることなく継承されてきております。現在、我々が力を入れているのは、学校と地域を結ぶ活動です。そのいくつかを紹介させていただきます。

始めに、学校美化・環境整備を兼ねた「おやじおふくろの会」です。正面玄関前を花いっぱいプラントで飾り、子供達に気持ちよく学校生活を送ってもらうと実施しています。この花壇は、玄関前への車の侵入を防止する車止めの役割も果たしており、通学の安全にも寄与しています。学校各所の空きスペースに植えた花は、地域の方々の目にも楽しませており、人知れず雑草取りを手助けしてくれる人もいます。花壇造りと並行して行う学校周辺の側溝の泥上げは、校庭の土が側溝に溜るため、年1回実施しています。11月には「おやじおふくろの会第2弾」として、花壇の片付けを行っています。

7月の田高祭では、PTAで模擬店を出し、地域交流に役買っています。バザー会場では、学校紹介ブースを設け、休憩しながら田名部高校を知ってもらう取組みをしています。今年度からは、定時制にも参加してもらい、さらなる地域への情報発信ができています。

たかと思えます。

12月には、研修会の一環としてそば打ち体験も継続しています。地域の郷土食であるそばを、地域の方々と交流し、教えを仰ぎながら打つことで、地域の歴史・食を実体験してもらう取組です。生徒も参加できるので、地元を離れる前に故郷をより深く知るよい機会になっています。

最後に今年の取組みを紹介します。次年度に閉校を迎える田名部高校英語科最後の2年生が先日、アメリカへの語学研修旅行から帰って来ました。語学研修体験発表を、保護者研修会でもとお願いしています。そして、インバウンドブームや来年の東京オリンピックも見据え、「実践使える英会話」と題して、英語の先生、英語科生に講師を務めてもらい、親子英会話教室も同時開催します。新たな取組みですが、子供・学校・保護者が一体となる行事として、今から楽しみです。

年々子供の数と共に会員数も減っていますが、皆で知恵を絞り、地域を巻き込みながら、負担なく、楽しく活動を継続していきたいと考えています。



「考える力」

青森東高校 女子ハンドボール部

令和初の青森県高等学校総合体育大会ハンドボール競技会において、悲願の初優勝をすることができました。女子ハンドボールでは1970年度大会開始以来、半世紀近く青森西高校、青森中央高校の2校だけで占めてきた女子頂点の座を青森東高校が初めて手にすることができたのは、これまで支えてきてくださった保護者の皆様、先生方、また青森東高校のOB、OGの皆様の応援のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。また、厳しかったと思う指導の中で数え切れないくらいの涙を流しながら、それでも私についてきてくれ、私自身にとっても初優勝というプレゼントしてくれた部員には本当に感謝しています。

今こそ多くの生徒がハンドボール部に入部してくれるようになりましたが、青森東高校に赴任してきた当時は部員数も少なく、苦しいと思うこともありました。試合中に怪我人が出て交代できる生徒がいないため、1人少ない状態で試合を続けたこともあります。

頑張っています 我が部活

日々の練習でも、なかなか試合状況を想定した練習ができなかったこともあります。そのため、ビデオ・ミーティングに多くの時間を費やしました。

やりました。試合や練習を撮影し、部員とともにビデオを見ながら、部員同士の話し合いを持ちました。時にはアドバイスをしながら、部員が自らチームの課題、自分の課題に「気づき」



高校総体閉会式後

「考え」練習に取り組むサイクルができました。与えられた練習メニューを何も考えずに行うのではなく、課題を常に意識し、練習することによって、効率の良い練習となり、1日1日の練習でレベルアップしていく部員の姿を見ることができるようになりました。また、試合中も相手チームの特徴を自分たちで「気づき」、どう戦えば有利になるのか考えるようになりました。あまり深く考えずに行ったビデオ・ミーティングによって、生徒の考えるということは、本当に大切なことだと改めて思い知らされました。まだまだ指導者として未熟ですが、部員とともに常に考え、レベルアップしていきたいと思っています。

これからは支えてくださる皆様に感謝の気持ちを忘れることなく、活動していきます。皆様のご支援とご協力をよろしくお願いします。

(顧問 亀田 勝寛)

編集後記

今年度調査広報委員長として県内外の会議や研修会に参加させていただき、皆様のPTA活動を目にするたびに「親の背を見て子は育つ」という言葉が思い浮かびました。大人の一生懸命な姿を見て育つ子供たちの未来が明るいものになることを信じています。日頃からPTA活動にご尽力いただいている学校関係者の皆様、原稿執筆を快くお引き受けいただきました皆様、誠にありがとうございました。(調査広報委員長 中村 靖子)



令和元年度 上半期事業費支出内訳

平成31年4月1日～令和元年9月30日

◆ 事業費 3,801,656円 (予算額 9,901,000円)

1 学校安全普及充実事業費	600,000円	
(1) 8月8日 助成金支出 (地区協議会 安全教育活動費)		300,000円
(2) 8月8日 助成金支出 (青森県高等学校体育連盟)		100,000円
(3) 8月8日 助成金支出 (青森県高等学校文化連盟)		100,000円
(4) 8月8日 助成金支出 (青森県高P連安全教育活動費)		100,000円
2 共済金等給付事業費	3,145,766円	
(1) 死亡共済金	0件	0円
(2) 後遺障害共済金	0件	0円
(3) 負傷共済金	157件	3,095,766円
(4) 香 料	1件	50,000円
	(前年度 2件)	
3 その他事業費	55,890円	
(1) 7月23日 安全互助会だより53号		55,890円

◎ 青森県高等学校安全互助会加入生徒数

全日制30,429名 定時制・特別支援学校1,043名 通信制288名 総数 31,760名

共済掛金は来年度も同じです。
全日制(専攻科を含む) 600円
定時制・特別支援学校 250円
通信制 100円

助成金事業

第40回県高総文祭青少年赤十字部門大会

第40回青森県高等学校総合文化祭青少年赤十字部門大会が、10月26日(土)に青森県立木造高等学校を会場に行われました。台風や大雨に伴う災害により各地で甚大な被害が生じ、その様子が報道される中で開催された今大会は、「私たちに何ができるのか」を改めて問いかける機会となりました。

大会では、各校の日頃の活動の成果を伝える「体験発表」・「壁新聞コンテスト」と共に、「救急救実技コンクール」が行われます。このコンクールは、私たちにとって特別な存在です。というのも、人道の実現を目指す青少年赤十字活動は、本来「争う」ことに馴染みません。しかし、高文連加盟には競技性が必要であったため、当時の顧問等が全国に先駆けて作り上げたのが、この「救急救実技コンクール」なのです。おかげで、平成元年に11番目の専門部として加盟が実現し、現在へと続いています。

今年度の「救急救実技コンクール」には、9校10チームが参加しました。1チーム4～5名で、AEDを用いた一次救命処置、三角巾を用いた包帯法、副木等を用いた固定法の技術を競います。事前に日本赤十字社青森県支部所属の救急救指導員および救急救指導講師による講習会を受講します。見た目以上に厳しい練習とチームワークが必要で、運動部に似たところがあります。出場した高校生は、生命の危険に向き合う緊張感

の中、傷病者に寄り添い優しい言葉を掛けながら、てきぱきと処置していきます。今大会も三八地区のチームが上位を独占しており、救急救への取り組みが最も盛んな地域となっています。

そして、このコンクールを支えていただいているのが、県高校安全互助会の補助事業です。平成9年と10年に、心肺蘇生訓練人形を合計12体寄贈していただきました。また、その後も継続的に支援していただき、県内各地にAEDトレーナーを配備することができました。今後とも大切に使用させていただきます。「いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」ことを使命として掲げる赤十字運動の一員として、県内の青少年赤十字部一同、これからも誰かのために何かができる自分を目指して活動していきます。

(県高総文青少年赤十字部
委員長 張間 亮)



コンクールでの弘前東高校